

2019年1月31日

市議会議長
小林雄二 様

刷新クラブ 視察研修報告

1. 日程 2019年1月27日(日)～1月30日(水)

2. 視察先
 - ・静岡県 下田市
 - ・群馬県 富岡市
 - ・千葉県 香取市

3. 参加者 田中和末、小林雄二、田村隆嘉、得重謙二 計 3名

4. 調査事項
 - ・下田市 : 世界一の海づくりプロジェクトについて
 - ・富岡市 : 富岡学、こども富岡体験学について
 - ・香取市 : 歴史的な町並みを活用したまちづくりについて

下田市：世界一の海づくりプロジェクトについて

《説明内容》

下田市の概要

観光の動向

世界一の海づくりプロジェクト

概要（理念、ハード整備、ソフト整備、推進体制、方針、事業など）

取り組みの経過

しーもん窓口利用者、予約者推移

《所感》

別紙参照

富岡市：富岡学、こども富岡体験学について

《説明内容》

富岡市の概要

生涯学習都市宣言、公民館について

富岡学について（開設、講座内容）

こども富岡体験学について

《所感》

別紙参照

香取市：歴史的街並みを活用したまちづくりについて

《説明内容》

香取市の概要

佐原のおこりと歴史

佐原の町並み保存経過

景観づくりの手法、修景、修理の実例

《所感》

別紙参照

視察報告

刷新クラブ 田中和末

下田市 「世界一の海づくりプロジェクトについて」

下田市の「世界一の海づくりプロジェクト」は、下田市の基幹産業である観光業の再興へ向けて、平成 25 年に策定された下田市観光まちづくり推進計画の主要な 3 つのプロジェクトの一つである。その理念は、訪れた人が快適に過ごすことだけではなく、地元の人が下田のよさに気づき、新しい次元でこのまちの豊かさを実感できるまちづくりを目指すものである。具体的な方針としては、情報発信の一元化（ホームページ、予約の一本化）により利用の簡便化や新規開拓を図る。連携の強化（共同イベントの開催、や教育旅行、イメージアップのための施策など）により市をあげて統一した取り組みにする。人材の育成（スペシャリスト、ジェネラリストの育成、地域力のアップ、外部人材の活用、海岸学や自然鋼材の開催）を図る。商売としてのモデルを確立し新たな事業を創出する。一年中海を楽しむことができる環境整備（資料参照）により市民も観光客も楽しめるリゾート化を進める等である。

とりわけ、一年中海を楽しむことができる環境整備は、これまで冬期間において活用が少なかった「海」の活用が大幅に改善され、市民の海に対する意識が大きく変化している。本市においても参考にすべきであると感じた。

富岡市 「富岡学・子ども富岡学について」

富岡市の富岡学は、市内の歴史や史跡、各地区の名所等を学び、知り得

たことを地域の人々に伝え、地域に誇りを持ち地域の活性化につなげていく目的で開設された。また、子ども富岡学は、地域の施設・企業・団体や地域人材を有効に活用し、子どもたちに「富岡」ならではの豊かな体験の場・交流の場を提供するものである。本市においても「周南市の歴史を広く深く学ぶことによって、ふるさとを大切に思う気持ちを育み、まちづくりの意欲を高め、地域貢献への活力を目指す」といった目的で歴史博士検定、子ども歴史博士検定が展開されている。

本市の事業は、知識の向上に重きが置かれているのに対し富岡市は、講座だけでなく現地へ赴いてより深く学ぶこと、また、当時の歴史背景について掘り下げて学ぶ取り組みが行なわれている。この取り組みにより、受講生が新たな指導者や解説員、伝道師となるなど裾野が広がっている気がした。

香取市「歴史的街並みを活用したまちづくりについて」

香取市の「歴史的街並みを活用したまちづくり」は、第2次まちづくり総合計画（前期2018～2022）の主要なプロジェクトの一つである「人を惹きつけるまちづくりプロジェクト」の主な事業である。

香取市は、全国10地区に指定されている伝統的建造物群保存地区の一つであり、文化財を保護すると共に、この文化財を活かした観光を主体としたまちづくりを図ろうとするものである。主な事業としては、歴史的建造物の保全事業と利活用、電線の地中化や歴史的な意匠での新築など景観の向上などである。

歴史的街並みを視察したが、保存地域では各所に工夫した取り組みが行なわれていたが、この地域へのアクセス（道路など）、また、宿泊施設など、今後さらに検討が必要のような気がした。

刷新クラブ会派視察報告

報告者 小林雄二

日程 2019年1月27日(日)(移動日)～1月30日(水)

視察先・目的

1月28日(月)：静岡県下田市役所・「世界一の海づくりプロジェクトについて」

1月29日(火)：群馬県富岡市役所・「富岡学・こども富岡体験学について」

1月30日(水)：千葉県香取市役所：「佐原町街並み交流館・歴史的町並みを活用したまちづくりについて」

(報告内容)

静岡県下田市役所・「世界一の海づくりプロジェクトについて」

下田市は、首都東京から≒130 km、県都静岡市から 65 kmの圏内にあり、富士箱根伊豆国立公園の一角を占め、自然を表象する 47 kmに及ぶ変化にとんだ海岸線を有している。

中でも深く切り込んだ下田港は、稲生沢川河口にできた深い谷間が陥没してできた港湾で、開国日本へ口火を切った港としてその果たした意義は大きい。

産業は、海水浴・温泉と自然・海産物が魅力となっている観光業関連が多く、水産業も盛んである。

1961年12月の伊豆急行線（伊東一下田間）開通により、観光客が急増、観光業が産業の中心となり、1967年には観光客が500万人を超えたが、バブル経済崩壊後は減少に転じ、2004年度は観光客が≒332万人と低迷している。

市域は東西13km、南北16kmの広がりを持ち、行政面積は104.38km²である。総人口は21,431人（2018年12月1日）、議員定数13名となっている。

視察事項の「世界一の海づくりプロジェクトについて」の所感

平成25年度に下田市の観光の具体的な行動指針となる「下田市観光まちづくり推進計画」を策定し、その中で優先的に取り組む主要事業として、「世界一の海づくりプロジェクト」が挙げられており、豊かな自然が市民の生活経済的基盤を支えるとともに、訪れる人の魅力にもなっており、人々の営みと自然が共生できるまちづくりを推進するとしている。

市内の自然体験活動事業所の自然体験活動事業（遊漁船、サーフィン、ダイビングなど）の活用やその情報を集約し情報発信の一元化。通年での海の多様な魅力や遊びを楽しめる場所の創出。下田の海の良さを伝える為の海洋学や自然講座活動、小学生や高齢者を対象とした事業。市民・事業者・宿泊施設・交通事業

者・旅行者・研究施設など多くの関係者と一緒になってオール下田で「1年を通して市民も観光客も自然体験活動を楽しむまち」のイメージを創出している。

下田市観光まちづくり推進計画で「観光客が旅することに求める非日常は、私たちのまちの日常であり、一流の観光地になるためには、一流の生活地になる必要がある」と冒頭市長が述べられているが、オール下田での取り組みの意欲を強く感じた。

この全体事業をコントロールしているのが観光交流課（人員 7 名）でありその積極性と人的配置も配慮されているのではと思った。（市長部局全体 176 人、教育委員会 85 人、外局 11 人、水道事業 14 人）

群馬県富岡市役所・「富岡学・こども富岡体験学について」

富岡市は、群馬県の南西部に位置し、東京から≒100 kmの距離にあり、上越自動車道及び関越自動車道によって東京都≒1 時間で結ばれているとともに、前橋市及び高崎市からは 20～30 kmの距離にある。

東は関東平野に続く平坦地で、西には標高 1,104mの妙義山、南には標高 1,370 の稲含山、北は小高い丘陵地帯で、中央部を鐺川とその支流の高田川が流れ、四季の変化に富んだ風光明媚な地域である。

主要産業は、現今では田園工業地域としてのまちづくりが進められ、町工場的

な存在から工業団地的な集約化が図られ、この工業が基幹産業として地域経済を支えている。

行政面積 122.85 km²、人口 49,274 人（平成 30 年 4 月 1 日）、議員定数 18 名である。

視察事項の「富岡学・こども富岡体験学について」の所感

平成 26 年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」として、ユネスコ「世界遺産一覧表」に記載され、その価値は国際社会に認められた。

富岡製糸場は明治 3 年、殖産興業政策に基づき西欧先端技術を導入した官営模範製糸場であった。明治 26 年に民営化され、その後、経営者が変遷し、昭和 62 年に営業停止、平成 17 年、富岡市が保存管理を引き継いでいる。

富岡製糸場の世界遺産登録後はたくさんの方が訪れるようになり、まちも活気づいている。富岡に誇りを持ち、訪れた人を迎え入れ、富岡市内の歴史や史跡、製糸場、各地域の名所等を学び知りえたことを地域の人々に伝える「富岡学」が計画された。

平成 29 年度の富岡学では、主なものとして、富岡製糸場総合研究センター所長兼名誉顧問（今井幹夫）の講座や養蜂農家の現状～二人の若手から学ぶ～養蜂農家・地域おこし協力隊、富岡製糸場解説員の講座、富岡学修了生による講座、

妙義山周辺観光案内所ボランティアガイドによる講座、史跡の視察研修など。

体験富岡学としては、富岡市生涯学習課青少年係が主体になって「地域の施設や企業や団体や地域人材を有効に活用し、子どもたちに「富岡」ならではの豊かな体験の場・交流の場を提供している。

さしずめ、体験富岡学は周南市で実施しているふるさと振興財団の太田原自然の家の活動と似ているが、富岡市においては生涯学習課青少年係が主体的に実施している。担当課・係の職員がアイデアを出し合い積極的に事業展開を実施していることは、少ない職員の中で、頑張っているなど感じたが、公務員は定期異動があり、ノウハウをどう引き継いでいくのかが課題ではないかと感じた。

千葉県香取市役所：「佐原町街並み交流館・歴史的町並みを活用したまちづくりについて」

香取市は、千葉県の北東部に位置し、北部は茨城県と接している。東京から70キロ圏にあり、成田空港から15キロ圏に位置する。北部には、利根川が東西に流れ、その流域には水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心にした平坦地で北総台地の一角を占めている。

東国三社の一つ「香取神社」、舟運で栄えた佐原のまちには日本で初めて実測地図を作成した「伊能忠敬」の旧宅（国史跡）、江戸時代から昭和初期に建てら

れた商家や土蔵が現在もその姿を残し、関東地方で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されるなど、自然・歴史・文化に彩られたまちともいえる。

平成 18 年 3 月 27 日、佐原市・小見川町・山田町・栗源町の 1 市 3 町が合併して、香取市が誕生している。行政面積 262.35 km²、人口 77,536 人（平成 30 年 4 月 1 日）、議員定数は 22 名である。

視察事項「佐原町街並み交流館・歴史的町並みを活用したまちづくり について」の所感

冒頭、昨年 11 月 1 日付、かとり市議会だよりの特集として「子育てお母さん to 市議会～子育て世代の本音に迫る～」とのタイトルで、子どもたちを放課後児童クラブに預けている保護者の皆さんと市議会が懇談会を開催したことが報告されていました。周南市議会では委員会懇談会というものがあり、もっとこれを活用しなくてはと思いました。

景観地区内の道路に面する建物は重要伝統的建造物群保存地区においては伝統的な建築物の占める割合が高く歴史的な町並みを構成しており、その構成率は 54% となっている。景観形成地区においては 30% 台に減少しているが、歴史的な面影を残している。

伝統的建造物群保存地区面積は 7.1 ha、棟数 309 棟。景観形成地区としては

18.6 h a（伝統的建造物群保存地区を含む）棟数≒600棟（伝統的建造物群保存地区を含む）となっている。

伝統的建造物群保存地区は「伝統的建造物群保存地区における許可基準・修景基準・修理基準」に基づき、景観形成地区は「景観形成地区における景観形成基準・修景基準・保全基準」に基づき景観形成を図っている。

伝統的な建築物の維持や修景には当然費用が掛かることから「香取市佐原地区町並み保存事業助成金交付要綱」（平成18年3月27日告示）に則り、助成金は伝統的建造物群保存地区の限度額700万円、景観形成地区の限度額500万円となっている。佐原の町並み保存の歴史は昭和48年の国庫補助による「伝統的建造物群保存対策事業」町並み調査に端を発し、昭和63年「ふるさと創生事業」のアイデア募集の中から市役所の中堅クラスの研究会として「地域づくり研究会」が発足し、平成6年に「佐原市歴史的景観条例」が施行された。

佐原地区町並み保存事業は地域を特定した助成事業で、平成18年3月27日、佐原市・小見川町・山田町・栗源町の1市3町の合併後も引き継がれている。このことは、佐原市時代の取り組みの歴史がしっかり引き継がれ、伝統的建造物群保存という性質上、教育委員会の取り組み方もしっかりしていたのではと考察される。

行政視察報告

報告者 : 田村隆嘉

【静岡県下田市 世界一の海づくりプロジェクトについて】

主要産業がサービス業（観光業）であり、下記の海水浴客は減少傾向で、釣りやサーフィン、ダイビング、カヤックなどはごく一部のコア層が楽しむものであった。

多くの体験プログラムが各事業者で実施されているが、コア層が対象で一般客を取り込めていない状況であったため、地元の人が下田の良さに気づくきっかけづくりと、訪れた人が快適に過ごせる環境づくりとして「世界一の海づくりプロジェクト」に平成25年から取り組まれている。

2名の臨時職員を雇用して、総合窓口（コンシェルジュ機能）を開設、事業者への聞き取り調査結果を基にホームページ（しーもん）やSNS、パンフレットで市内外へ情報発信している。また、市民を対象とした講演会やSUP講座を実施している。

窓口（しーもん）利用者も増加傾向にあり、成果が現れている。

市職員の熱意と行動力が大きく影響していると感じられた。

【群馬県富岡市 富岡学、こども富岡体験学について】

市の歴史や文化を学び、地域活性化のための人材育成を目指して、平成25年から富岡学を解説されている。1期2年という長い期間で富岡の歴史、文化、地理について多くのテーマで口座を開催している。現在4期目で講座内容も見直されながら実施され、市外からの受講者もある。受講者の平均年齢は50再半ば以上であるが、今後高齢長寿が進む中で受講者の活躍（指導者、ガイド、講師となる）を期待できる。また、講座の内容は富岡市の大切な財産になった。

こども富岡体験学は平成30年からスタートした事業で、子どもたちに富岡ならではの体験・交流の場を提供するイベントを開催されている。担当職員のが知恵を絞り、子どもたちに参加してもらえるネーミング、内容になっている。継続して実施するためには、行政だけでなく、地域団体の協力が必要だろう。

【千葉県香取市 歴史的町並みを活用したまちづくりについて】

江戸時代における利根川の瀬替えによる流域の新田開発や東北からの物資船運の拠点として、佐原が商業都市として発展した経緯を解りやすく説明いただいた。明治以後も港湾商業として発展し街道沿い、川沿いに商家、問屋、醸造、倉庫など規模の大きい建築物が建設され、大正以後は洋風建築の建築物も建設された。昭和40年以後は商業活性化に取り組まれたが効果がなく、平成に入って「ふるさと創生事業」をきっかけに、歴史的街並みの保存、修景に舵を切った。市民団体の発足や検討会を経て、町並み保存基本計画、歴史的景観条例を施行し、官民の協力、大学生プロポーザルや高校生が参画してまちづくりに取り組まれている。防災対策を合わせて行い、国の補助を活用しつつ生活の犠牲を強いらぬ方法で取り組まれていることで、まちづくりを進められている。

以上

行政視察報告書

報告者 得重謙二

1. 会派名 刷新クラブ（田中・田村・小林・得重）
2. 視察日時 平成31年1月28日（月）9:30～11:00
3. 視察場所 静岡県下田市
4. 視察項目 世界一の海づくりプロジェクトについて

5. 概要

下田市は、約47kmにも及ぶ海岸線の中に9つの海水浴場を有し、サーフィンを楽しむ観光客で毎年賑わっている。しかし、地元の海の素晴らしさを地元の方々にもっと知ってもらいたい。地元の海を誇りに感じてもらいたいとの事から、それまで9つの管理団体が独自で活動していたことを協議会をつくり市をあげて取り組んでいる事業である。

6. 所感

下田市は、自然豊かな環境でアウトドアが盛んなイメージがある。特に魅力である海は、夏期の海水浴シーズンは多くの観光客で賑わっている。一方閑散期は、釣り客、サーファー、ダイバーなど、ごく一部のコア層にしか需要がなく、一般客を取り込めていないことから、まずは地元の方に海の魅力を伝えるために取り組んだ事業であった。主な内容としては、自然体験活動推進協議会（しーもん）を立ち上げ、それまで各々で活動していた団体を一括管理できるよう市全体で取り組み連携を持たせたことや、ホテルや旅行会社を巻き込みコンシェルジェ機能を持たせたことが大きい。観光客や宿泊者数の拡大を目的とした事業ではないため、その部分の数字は増加していないが、しーもんが主催する地元の方を対象とした各種プログラム（陶芸・紙クラフト・蕎麦うち・ワカメ収穫等）については、順調に参加者が増加し、市民の関心も高い事業に繋がっている。本市も一見すれば、客の取り合いになり兼ねない様な団体が、協力することで相乗効果や波及効果を生むことが出来るモデルとして見習うべき点も多くあった。下田市は行政が関与し、主導的に推進しているが、民間団体そのものに主導権を譲渡することが望ましいと感じた。

行政視察報告書

報告者 得重謙二

1. 会派名 刷新クラブ（田中・田村・小林・得重）
2. 視察日時 平成 31 年 1 月 29 日（火）9:30～12:00
3. 視察場所 群馬県富岡市
4. 視察項目 富岡学・こども富岡体験学について

5. 概要

富岡学・こども富岡体験学は事業予算 115 万円／年で、市の歴史や文化などを学び、次世代に伝えていくと共に、地域活性化のために人材を育成するための講座を開催する事業である。また、郷土愛を育むために子ども版も開催している。

6. 所感

講座は、1 期 2 年間で 48 回のプログラムであり、卒業には試験まである非常にハードルの高い設定であった。生徒は、一般市民の他、教員やスクールサポーター等様々な職種で構成されており、応募予定者数を超過した結果、実行委員会が選考する形をとっていた。平成 25 年からこれまで 5 期生まで講座を進めているが、1 期が 48 回と多かったことから 2 期目からは半分に削減し、卒業率の向上を図った。富岡学で学んだ知識は、個人の見識に留めることなく、他に発信することが目的であるため、卒業生が講師になったりと工夫を凝らしていた。本市にも歴史博士検定があるが、他への発信は求めておらず、SNS 等を利用し他に発信するところまで踏み込むことも今後検討したい。また、子ども体験学は発信方法がおもしろい。子どもを疲れさせる、あきることを前提にプログラミングされており、多少の厳しさの中で、達成感と同時に市の魅力を子ども達に伝えていた。市内になる施設を改めて見たり、遊んだりするだけに見えるが、教育委員会の工夫で一味違ったおもしろさを体験できたのではないだろうか。高学年がスポ少の関係で参加者が少ない、少数校の参加者が少ない等の課題はあるが、パワフルな職員が先頭を切って取り組んでいるのでクリアできると感じている。

行政視察報告書

報告者 得重謙二

1. 会派名 刷新クラブ（田中・田村・小林・得重）
2. 視察日時 平成 31 年 1 月 30 日（水）9:30～11:00
3. 視察場所 千葉県香取市
4. 視察項目 歴史的町並みを活用したまちづくりについて

5. 概要

香取市では昭和 48 年から、国による町並み調査が実施され、忠敬橋を中心に小野川沿い 500m 香取街道沿い 400m の範囲を「伝統的建造物群保存地区」として位置づけられた。上述の範囲にかかる歴史的建造物を管理するため、家屋の修繕費等を市が補助し、町並みを保存している状況であるが、景観形成地区を合わせると 20 年で約 12 億円の支出となっている。

6. 所感

香取市は、元文から安政、天保の時代、利根川から江戸へ物資を運ぶ中継点として、大変栄えた歴史を持つ。商業活動で栄えた町なので、現在も歴史的な旧家が多く、その歴史的建造物を保存しながら街の活性化に取り組んでいた。平成 6 年の条例制定を皮切りに、旧家を活用しての喫茶店や飲食店を開業したり、利根川を利用しての屋形船など様々な仕掛けをしているが、空き家を貸してくれる家主が居ないため、空き家活用の事業にまで発展していない。このため、他市から新規で開業することが難しく、古くから地区内にいる人のみ恩恵を受けている印象もある。地区内の家の外観をリフォームする場合、上限 700 万円まで補助金が出るなど、手厚すぎる補助が発展を妨げている一要因にもなっているのではなかろうか。本市には同様の地区は存在しないが、公平な観点から言うと改善の余地がある事業である。